

社会系/基礎科目

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
経済学A	経済学の考え方を身につける	高橋 真悟	1年次前期
講義の目的	経済学Aでは、経済を構成する家計（消費者）や企業（生産者）といった経済主体の行動、または市場における価格メカニズムなどを扱う「ミクロ経済学」という経済理論の考え方を学んでいきます。		
到達目標	この講義を通じて、日常生活に溢れる経済学的要素を身につけ、賢い消費者として行動できるようになることを到達目標とします。そして企業がどのようなことを考えながら企業活動を行っているかを理解できるようにします。		
講義内容	経済というとおカネのイメージが強いと思いますが、経済活動はモノやサービスをつかって売り、それらを消費する一連の活動を指します。この中でおカネは、モノやサービスをつくる「費用」や「価格」において大事な役割をもち、労働者にとっては給料やボーナスという形で「やる気」とも直結しています。経済学Aでは、これらの内容を身近な例を踏まえて紹介し、楽しみながら経済学を学んでいきます。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション（授業概要・運営方法の説明）	
	第2講	経済学における費用の考え方（1）～サンクコスト	
	第3講	経済学における費用の考え方（2）～機会費用～	
	第4講	経済学における費用の考え方（3）～比較優位～	
	第5講	経済活動とやる気（1）～インセンティブ～	
	第6講	経済活動とやる気（2）～モラルハザード～	
	第7講	経済活動とやる気（3）～逆選択～	
	第8講	市場における価格（1）～価格差別～	
	第9講	市場における価格（2）～裁定～	
	第10講	市場における価格（3）～囚人のジレンマ～	
	第11講	経済活動と将来（1）～共有地の悲劇～	
	第12講	経済活動と将来（2）～割引現在価値～	
	第13講	経済活動と将来（3）～ネットワーク外部性～	
	第14講	総復習（1）キーワードの復習	
	第15講	総復習（2）練習問題の復習	
方法指導	講義はプリントを中心に行います。また、毎回授業内課題として映像資料を踏まえた論述問題に取り組んでもらいます。		
授業外学習	授業前の事前学習として、次回扱うキーワードがどのようなものかを簡単に調べておいてください。事後学習としては、キーワードの具体例を説明できるように復習しておいてください。		
成績評価方法	本試験（筆記試験）60%、平常点（授業内課題）40%		
テキスト	特になし。毎回プリントを配布します。		
書籍参考	吉本佳生監修『「出社が楽しい経済学」DVDブック（第1～4巻）』日経BP社、2009年。		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
経済学B	経済学の考え方を身につける	高橋 真悟	1 年次後期
講義の目的	経済学Bでは、経済学Aに引き続き、経済を構成する家計（消費者）や企業（生産者）の行動、または市場における価格メカニズムなどを扱う経済理論の考え方を学ぶことを目的とします。		
到達目標	この講義を通じて、日常生活に溢れる経済学的要素を身につけると同時に、企業がどのようなことを考えながら企業活動を行っているかを理解できるようにします。これに加えて経済学Bでは、金融危機と人々の経済活動や鉄道に関する経済学が理解できるようになることを到達目標とします。		
講義内容	経済活動はモノやサービスをつかって売り、それらを消費する一連の活動を指します。経済学Bでは、経済学Aに引き続き、楽しみながら経済学を学んでいきます。前半は企業と消費者に関係する内容を金融危機（リーマンショック）の内容も入れながら学習していきます。学期の最後の方では、鉄道の経済学を2回に分けて学習します。なお、必要なキーワードは授業で毎回説明するので、経済学Aを受講していなくても問題ありません。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション（授業概要・運営方法の説明）	
	第2講	金融危機と経済主体（1）～インセンティブ、モラルハザード、逆選択～	
	第3講	金融危機と経済主体（2）～囚人のジレンマ～	
	第4講	企業と消費者（1）～ロックイン～	
	第5講	企業と消費者（2）～コミットメント～	
	第6講	企業と消費者（3）～ヴェブレン効果～	
	第7講	企業と消費者（4）～心の会計～	
	第8講	現代の企業活動（1）～スクリーニング～	
	第9講	現代の企業活動（2）～オークション～	
	第10講	現代の企業活動（3）～レントシーキング～	
	第11講	現代の企業活動（4）～規模の経済性～	
	第12講	鉄道の経済学（1）～価格差別、機会費用～	
	第13講	鉄道の経済学（2）～本源的需要、派生需要～	
	第14講	総復習（1）キーワードの復習	
	第15講	総復習（2）練習問題の復習	
方法指導	講義はプリントを中心に行います。また、毎回授業内課題として映像資料を踏まえた論述問題に取り組んでもらいます。		
授業外学習	授業前の事前学習として、次回扱うキーワードがどのようなものかを簡単に調べておいてください。事後学習としては、キーワードの具体例を説明できるように復習しておいてください。		
成績評価方法	本試験（筆記試験）60%、平常点（授業内課題）40%		
テキスト	特になし。毎回プリントを配布します。		
参考書籍	吉本佳生・NHK「出社が楽しい経済学」制作班編『出社が楽しい経済学2』NHK出版、2009年。		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
経営学A	経営学の基礎的な概念を身につける	谷川 寿郎	1年次前期
講義の目的	経営学の初学者が、経営学の基礎的な概念や理論を理解し説明できることがこの講義の目的です。		
到達目標	経営学の基本的な概念や理論を理解し、習得した概念や理論を基礎として、様々な社会問題を解決しようとする力を身につけることを到達目標とします。		
講義内容	経営学の対象の中心は株式会社という組織であり、株式会社という制度を学び、株式会社の活動をとらして経営学の基礎的な概念や理論を学んでいきます。		
講義スケジュール	第1講	[講義概要とオリエンテーション] 授業内容と進め方などについて説明。	
	第2講	[経営学とはなにか] 経営学の概要、および、経営学の対象について学ぶ。	
	第3講	[企業とはなにか①] 分業と協業のしくみについて学ぶ。	
	第4講	[企業とはなにか②] 企業とはなにか。株式会社について考える。	
	第5講	[株式会社と市場の関係①] 資本市場について学ぶ。	
	第6講	[株式会社と市場の関係②] 労働市場について学ぶ。	
	第7講	[株式会社の目的と企業価値] 株式会社の目的と経営理念、および、企業価値について学ぶ。	
	第8講	[株式会社の利潤とリスク] リスクとリターン、および、エージェントコストと取引コストについて学ぶ。	
	第9講	[コーポレート・ガバナンス] 株式所有構造と企業統治について学ぶ。	
	第10講	[経営戦略] 戦略的意思決定と経営戦略の策定について学ぶ。	
	第11講	[マーケティング] マーケティングおよびブランド戦略について学ぶ。	
	第12講	[経営管理と経営組織] 経営管理の理論、および、経営組織の構造とその変革を学ぶ。	
	第13講	[財務と会計] 財務諸表とキャッシュフローの計算、および、機会費用について学ぶ。	
	第14講	[企業評価と投資計算] 将来収益と資産評価、および、投資計算について学ぶ。	
	第15講	まとめと総復習	
方法指導	講義はパワーポイントを用いて進めます。双方向のコミュニケーションにより授業を運営します。講義中に意見等を求めるので積極的な発言を希望します。		
授業外学習	授業前の事前学習としてテーマについて調べておいてください。事後学習としてテーマについて説明ができるように復習してください。		
成績評価方法	本試験（筆記試験）（60%）、平常点（発表・発言）（40%）		
ステキ	特になし。		
書籍参考	亀川雅人・鈴木秀一 『入門経営学』（第3版）新世社、2015年。 亀川雅人・高岡美佳・山中伸彦 『入門現代企業論』新世社、2004年		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
経営学B	企業と社会の関係について学ぶ	谷川 寿郎	1 年次後期
講義の目的	経営学の基礎的な概念や理論を理解し、説明できることを前提にして、企業と社会との関係について考察する力を身につけることがこの講義の目的です。		
到達目標	経営学の基礎的な概念や理論を理解し、習得した概念や理論を基礎として、様々な社会問題を解決しようとする力を身につけることを到達目標とします。		
内容	企業と社会との関係を考察し、様々な社会問題に関心を持ち、解決しようとする力を身につけられるように学んでいきます。		
講義スケジュール	第1講	[講義概要とオリエンテーション] 授業内容と進め方などについて説明。	
	第2講	[企業と社会の関係①] ステークホルダーについて学ぶ。	
	第3講	[企業と社会の関係②] 消費者（顧客）との関係について学ぶ。	
	第4講	[企業と社会の関係③] 投資家との関係について学ぶ。	
	第5講	[企業と社会の関係④] 従業員（社員）との関係について学ぶ。	
	第6講	[企業と社会の関係⑤] 地域社会との関係について学ぶ。	
	第7講	[企業倫理] 企業倫理について学ぶ。	
	第8講	[企業と環境①] 企業の社会的責任について学ぶ。	
	第9講	[企業と環境②] 社会的費用あるいは外部不経済という問題について考える。	
	第10講	[企業と環境③] ケース・スタディ、楽器製造メーカーにおける環境問題について考える。	
	第11講	[企業と環境④] 自然を守る、その方法や基準について考える。	
	第12講	[日本的経営の歴史的考察①] 高度成長期の経営について学ぶ。	
	第13講	[日本的経営の歴史的考察②] 高度成長期から成熟期の経営について学ぶ。	
	第14講	[日本的経営の歴史的考察③] バブル崩壊と失われた時代の経営について学ぶ。	
	第15講	まとめと総復習	
方法指導	講義はパワーポイントを用い進めます。双方向のコミュニケーションにより授業を運営します。講義中に意見等を求めるので積極的な発言を希望します。		
授業外学習	授業前の事前学習としてテーマについて調べておいてください。事後学習としてテーマについて説明ができるように復習してください。		
成績評価方法	本試験（筆記試験）（60%）、平常点（発表・発言）40%		
ステキ	特になし。		
書籍参考	亀川雅人・鈴木秀一 『入門経営学』（第3版）新世社、2015年。 亀川雅人・高岡美佳・山中伸彦 『入門現代企業論』新世社、2004年		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
法学A	法を学ぶ	松岡 弘樹	1 年次前期
講義の目的	私達は、法律は難解であり、専門家のものであった認識を持ちがちですが、社会の複雑多様化に対応して、法律の重要性は一層増しつつあるといえます。そういった意味では、法律の知識を積極的に身につけ、トラブルを未然に防止することが、快適な社会生活を営む上で有効な手段になりうるといえるでしょう。本講義では、法の概要を学ぶことにより、法の基本理念を把握することを目的として講義を行います。		
到達目標	本講義では、法的なものの考え方、いわゆる「法的思考力（リーガルマインド）」を身につけることを到達目標として講義を行います。		
内容講義	本講義では、法概念、特質、他の規範との関係、体系、解釈等の法の基本的理念 に関して講義を行います。併せて、法的なトラブルの実例や実際の事件を紹介し解説します。		
講義スケジュール	第1講	法とは何か：規範としての法の必要性、法が主要な規範たる理由	
	第2講	法の特質：行為規範、社会（他律）規範、強要規範としての法の特質	
	第3講	法と他の規範との関係：法と道徳、慣習、宗教、戒律等の規範との違い	
	第4講	法の歴史：法の成り立ちと歴史	
	第5講	法の法源（1）：法源の意義と種類、制定法・判例法主義の国	
	第6講	法の法源（2）：制定法、判例法、慣習法、条理とその役割	
	第7講	法の体系：憲法、法律、命令他（政令、省令、条例）	
	第8講	法の分類：公法と私法、実体法と手続法、普通法（一般法）と特別法、強行法と任意法	
	第9講	法の適用の原則：所管事項の原則、形式的効力の原則、後法優先の原則、特別法優先の原則	
	第10講	法の解釈（1）：法の解釈の必要性和種類	
	第11講	法の解釈（2）：有権解釈（立法解釈、行政解釈、司法解釈）、学理解釈	
	第12講	法の解釈（3）：文理解釈、論理解釈（拡張解釈、縮小解釈、類推解釈、反対解釈、変更解釈）	
	第13講	法と権利：法における権利、権利の行使と濫用	
	第14講	法と義務：法における義務、権利・義務の主体と客体	
	第15講	まとめ	
指導方法	授業は、講義形式で行います。なるべく皆さんの身近な問題、話題となった事件等を取り入れてわかりやすく面白い講義を行いたいと思います。講義中の事柄に限らず、日ごろ疑問に思っている法律問題等ありましたら、どんどん質問して、学習に役立てるようにして下さい。講義への積極的な参加を希望します。		
授業外学習	本講義で学ぶ内容は、法律全般に渡るため、下記の参考文献等を参考にして、講義スケジュールの各項目について、事前に予習をし、講義後に復習するようにして下さい。		
成績評価方法	本試験（筆記試験）70%、平常点（授業内課題）30%の結果を総合して評価します。		
テキスト	特定のテキストは使用しません。		
書籍参考	「新版現代法学入門」伊藤正巳・加藤一郎編著（有斐閣）、「基礎法学入門」蓮井良憲・畑博行編著（有信堂）、「現代社会と法」小野幸二編著（八千代出版）、「ポケット六法（平成30年度版）」井上正仁・能見善久編（有斐閣）		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
法学B	我国の主要な法を学ぶ	松岡 弘樹	1 年次後期
講義の目的	私達は、法律は難解であり、専門家のものといった認識を持ちがちですが、社会の複雑多様化に対応して、法律の重要性は一層増しつつあるといえます。そういった意味では、法律の知識を積極的に身につけ、トラブルを未然に防止することが、快適な社会生活を営む上で有効な手段になりうるといえるでしょう。本講義では、我国の法体系の輪郭を学び、各法律の概要を把握する事を目的として講義を行います。		
到達目標	本講義では、憲法を始めとする我国の主要な法律の概要、基本理念および各法規間の関係を理解することにより、日常生活上のトラブルに関して、法的な解決能力を身につけることを到達目標として講義を行います。		
内容	本講義では、憲法を始めとする我国の主要な法律をとりあげ、その概要を学ぶとともに、各法律における争点、改正のポイント、判例についてもとりあげます。		
講義スケジュール	第1講	国家と法：国家の統治権・統治作用に関する根本原則を規律する法の概要（憲法）	
	第2講	財産と法：財産関係を規律する法の概要（民法：総則、物権、債権）	
	第3講	家族と法：家族関係を規律する法の概要（民法：親族・相続）	
	第4講	企業と法：会社制度の概要、会社の種類（会社法）	
	第5講	商取引と法：商取引の基本ルール（商法）	
	第6講	犯罪・刑罰と法：犯罪と刑罰の種類と内容（刑法）	
	第7講	訴訟と法：裁判制度と訴訟手続（民事訴訟法、刑事訴訟法）	
	第8講	労働と法：使用者と労働者との関係を規律（労働基準法、労働組合法、労働関係調整法）	
	第9講	情報と法：情報化社会における情報の保護（個人情報保護法）	
	第10講	教育と法：教育制度の法的地位とその理念（教育基本法）	
	第11講	医療と法：医療行為に対する法的規制（医師法、医療法、薬事法、麻薬取締法）	
	第12講	社会福祉と法：憲法第25条と法（生活保護法、老人福祉法、児童福祉法）	
	第13講	環境と法：環境破壊に対する法的規制（公害対策基本法、大気汚染防止法）	
	第14講	国際社会と法：国際平和の維持と法的規制（国際条約、慣習国際法）	
	第15講	まとめ	
指導方法	授業は、講義形式で行います。なるべく皆さんの身近な問題、話題となった事件等を取り入れてわかりやすく面白い講義を行いたいと思います。講義中の事柄に限らず、日ごろ疑問に思っている法律問題等ありましたら、どんどん質問して、学習に役立てるようにして下さい。講義への積極的な参加を希望します。		
授業外学習	本講義で学ぶ内容は、法律全般に渡るため、下記の参考文献等を参考にして、講義スケジュールの各項目について、事前に予習をし、講義後に復習するようにして下さい。		
成績評価方法	本試験（筆記試験）70%、平常点（授業内課題）30%の結果を総合して評価します。		
テキスト	特定のテキストは使用しません。		
書籍参考	「新版現代法学入門」伊藤正巳・加藤一郎編著（有斐閣）、「基礎法学入門」蓮井良憲・畑博行編著（有信堂）、「現代社会と法」小野幸二編著（八千代出版）、「ポケット六法（平成30年度版）」井上正仁・能見善久編（有斐閣）編（有斐閣）		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
政治経済	政治と経済の仕組みを知る	福山 圭介	1 年次前期
講義の目的	皆さんが社会に出て働くようになると、仕事や家計を通じて否応なく政治や経済に関心をもつようになるはずですが。しかし日々のニュースは断片的な情報しか与えてくれません。本講義では、政治と経済についての古典的かつ根本的な考え方を学ぶことによって、そうした情報の意味を将来に渡って自分の頭で考えられるような「概念装置」を身につけます。		
到達目標	政治経済分野においてニュース時事能力検定準 2 級レベルの知識習得を目標としますが、単なる知識の暗記ではなく、社会科学として背後にある論理の探求を目指します。		
内容講義	民主主義とは多数決なのか？民主主義が独裁者を生むのか？政権政党は誰によって選ばれているのか？民主主義と資本主義はどんな関係にあるのか？政府の経済政策は誰のために行われているのか？日本は階級社会なのか？以上のような問いから出発します。		
講義スケジュール	第 1 講	オリエンテーション：授業概要や運営方法等の説明	
	第 2 講	民主主義と三権分立	
	第 3 講	世界の政治制度	
	第 4 講	大日本帝国憲法と日本国憲法(1)	
	第 5 講	大日本帝国憲法と日本国憲法(2)	
	第 6 講	戦後日本の政治史	
	第 7 講	国際政治経済	
	第 8 講	経済体制と経済学説	
	第 9 講	戦後日本の経済史(1)：終戦～高度経済成長	
	第 10 講	戦後日本の経済史(2)：オイルショック～バブル	
	第 11 講	戦後日本の経済史(3)：失われた 20 年	
	第 12 講	金融政策と財政政策	
	第 13 講	地方自治と地方経済	
	第 14 講	政治経済基礎理論(1)：マックス・ウェーバー「支配の諸類型」	
	第 15 講	政治経済基礎理論(2)：カール・マルクスの階級論	
方法指導	“スライドとプリントを使った講義 60 分+映像 20 分+コメントペーパー記入 10 分”が基本形式です。		
授業外学習	予習の必要はありません。本試験に向け計画的に復習をして下さい。		
成績評価方法	本試験(筆記試験) 60%、平常点(授業内課題) 40%		
テキスト	ありません。授業内でプリントを配布します。		
書籍参考	授業内で指示します。		
事項特記	本講義はキャリア科目として「ニュース時事能力検定」3 級以上の受験を推奨しています。できるだけ多くの学生が受験することを期待しています。受験者には成績優遇措置があります。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
現代社会論	グローバル社会の諸問題	福山 圭介	1 年次後期
講義の目的	沖縄の米軍基地、大国化する中国、変貌する日米同盟、混迷を深める中東情勢、欧州の移民問題など、今日のグローバルな社会にあって私たち一人一人にとっていつでも身近な問題となりうる事柄を、どのように理解すれば良いのか？ネットやテレビのニュースの聞きかじりに満足せず、より深く、社会科学として理解することを学びます。		
到達目標	ニュース時事能力検定準2級以上ないしそれ相当の知識を身につけ、さらには単なる知識に留まらない現代社会への永続的な興味・関心を各自が持てるような授業にします。		
講義内容	なぜ翁長沖縄県知事は辺野古への基地移転に反対するのか？アメリカは沖縄の基地をどう考えているのか？中国は尖閣諸島に攻めてくるのか？イスラム国はなぜ生まれたのか？なぜ欧州で最近テロが頻発しているのか？グローバリゼーションって結局何のことなのか？トランプはなぜ大統領になれたのか？これらの疑問から出発します。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション：授業概要や運営方法等の説明	
	第2講	在日米軍と日米同盟	
	第3講	沖縄基地問題	
	第4講	米軍再編と日米交渉	
	第5講	米軍と人民解放軍	
	第6講	国際海洋法条約と尖閣諸島・南沙諸島	
	第7講	イスラムとは何か	
	第8講	中東の近代史とアラブの春	
	第9講	フランスの同時多発テロ事件とイスラム系移民問題	
	第10講	映像授業	
	第11講	植民地主義の歴史	
	第12講	EUの苦悩 ―グローバリズムとナショナリズムの狭間	
	第13講	アメリカ ―現代資本主義の様相	
	第14講	グローバリゼーションと世界の貧困	
	第15講	まとめと演習	
方法指導	“スライドとプリントを使った講義 60 分+映像 20 分+コメントペーパー記入 10 分” が基本形式です。		
授業外学習	予習の必要はありません。本試験に向け計画的に復習をして下さい。		
成績評価方法	本試験（筆記試験）60%、平常点(授業内課題)40%		
ステキ	ありません。授業内でプリントを配布します。		
書籍参考	課題図書について授業内で指示します。		
事項記	本講義はキャリア科目として「ニュース時事能力検定」3級以上の受験を推奨しています。できるだけ多くの学生が受験することを期待しています。受験者には成績優遇措置があります。		